

* 日山の植物 *

ふるさとの山

阿武隈山地は、そのおだやかな準平原の地形からして、古くから人々の開発利用を受けて来た。

われわれの利用する熱源は、今でこそ石油やプロパンガスであるが、今からほんの20年



〔日山〕 山腹は古い薪炭林で覆われるが、これを切り開いて盛んに植林が行われている。

ほど前までは薪や木炭が主力であった。とくに木炭の生産は山村の主要産業であり、草深い山のなかの集落も、これをもって都会と対等の経済的地位を保って来た。阿武隈山地の森林も、薪炭林として維持管理されて来たものが多い。現在、山地の大部分を覆って繁茂するコナラやミズナラの林は、みなこの薪炭林のなごりである。

また、現在では、動力源としてモーターや各種のエンジンが広く利用されているが、今から30年前ぐらいまでは、人力の及ばぬ所は牛や馬の力に頼るのが普通であった。したがって、馬産は今の自動車産業に匹敵する重要な産業であり、農村の主要な現金収入の道でもあった。特に、駒と呼ばれる乗用の馬は、昔は重要な兵器であり、その生産は国や藩の力の指標であったから、馬産の振興は国策の一つとして強力に進められた。当時の農村は、現在の出稼ぎに頼る農村とは異なり、いながらにして国の基幹産業のにない手であり、活気に満ちたものであった。

馬といっても、当時の馬は今の競走馬と異なり、飼料は野草が主であった。この野草資源として、わが国の山地ではいたる所で草地経営が行われた。それは現在の改良牧野では